

第2章 尾道市の概要

1. 尾道市の概要

尾道市は瀬戸内のほぼ中央、広島県の南東部に位置し、平成17年3月28日には、御調郡御調町・向島町と合併、翌年平成18年1月10日には、因島市・豊田郡瀬戸田町と合併をして、面積約284.85k㎡、人口15万人強の市に成長した。

かつて尾道は、対明貿易船や北前船、内海航行船の寄港地として繁栄し、港町・商都として発展してきた。それら各時代に豪商を生み、尾道は古くから港を生命として栄えていた。さらに近年は“造船のまち”としても知られており、例えば、尾道造船株式会社は昭和18年4月に創立され、尾道を代表とする企業の1つとなっている。また、日立造船向島工場など多くの企業も尾道の造船業を支えてきた。

また、尾道は文化の町としても有名であり、「暗夜行路」を執筆した志賀直哉、尾道の女学校（現在の広島県立尾道東高等学校）出身で、「放浪記」の作者である林芙美子をはじめ多くの文化人が足跡を残している。さらに、近年では数々の映像作品の舞台となり“映画のまち”としても有名である。例えば、出身地である尾道を舞台に尾道三部作を手がけた大林宣彦監督の名を知らない者はほとんどいないであろう。昭和57年に「転校生」、昭和58年に「時をかける少女」、昭和60年に「さびしんぼう」を撮影して大ヒットを収め、これらは、永遠の青春映画として人々の心に残っている。また、平成22年9月からNHK連続テレビ小説で尾道を舞台として「てっぺん」が放映されたことは、記憶に新しい。こうしたことから尾道は観光の町としても有名である。

一方、尾道市は隣接する福山市、三原市などの城下町とは違い、“古寺のまち”としても知られている。尾道市には、国・県・市が指定する文化財が347件あり、西国寺・千光寺・浄土寺を始めとする古寺が多く、観光スポットとして、約25か寺をめぐる古寺めぐりのコースが設けられている。このように尾道は西の奈良とも言われるが、中でも千光寺周辺は桜の名所としても有名であり、昭和32年3月25日に開通した千光寺ロープウェイを利用して、毎年4月になると尾道市民、観光客を問わず花見を楽しむ人々で賑わっている。

このような古から現在まで受け継がれている長い歴史と伝統は、今でも大切にされており、尾道では年間を通して多くの祭りなど様々なイベント行事が行われている。主なイベント行事について、【図表2-1】に示した。

【図表2-1】尾道の主なイベント行事

春のイベント (3月～5月)	3月	しまなみ縦走 千光寺公園の桜・花見		
	4月	さくら茶会 尾道みなど祭		
	5月	山王祭		
夏のイベント (6月～8月)	6月	祇園祭 尾道本通り商店街の土曜夜店		
	7月	天神祭 水祭り 因島水軍まつり(島まつり) おのみち住吉花火まつり		
		8月	瀬戸田夏まつり 因島水軍まつり(火まつり・海まつり)	
			9月	しまなみアイランドライド2011 瀬戸内しまなみ海道スリーデーマーチ
		秋のイベント (9月～11月)	10月	尾道灯りまつり 餅つき神事 グルメ・海の印象派～おのみち～ 木ノ庄鉦太鼓踊り
	11月			尾道菊花展 尾道ベッチャー祭り
冬イベント (12月～2月)				1月
	2月			

2. 尾道本通り商店街の概要

さて、次に尾道の顔である尾道本通り商店街について紹介しよう。

【図表2-2】尾道本通り商店街の通称

各商店街の通称	各商店街の正式名称
一番街	尾道駅前本町一番街商店街振興組合
中商店街	尾道土堂中商店街
センター街	尾道本町センター商店街振興組合
中央街	尾道中央商店街振興組合
尾道通り	尾道通り日本陣・石畳地区商店街振興組合
尾道本通り商店街	上記5つの商店街の総称

尾道本通り商店街は現在、一番街・中商店街・本町センター街・中央街・尾道通りの5つの商店街に分かれているが(各商店街の正式名称を【図表2-2】)、以前は、一番街、中央商店街、本町商店街、中央街、金座街、久保本町商店街の6つに分かれていた。しかし、

現在では久保本町商街が姿を消し、平成 16 年には金座街が現在の尾道通り商店街に改名されて 5 つの商店街となり、これら 5 つの商店街が結合し尾道本通り商店街が形成されている。また、その長さは約 1.1km に及ぶものである。以下に示した【図表 2-3】は昭和 30 年代の尾道本通り商店街の様子である。

【図表2-3】 尾道本通り30年代の写真



写真中に写る建物は、昭和30年代の尾道、尾道通り沿いの商店街の様子を写している。建物の多くは、ローアーキの1階部分が平屋の形に変わっており、2階部分が「尾道通り」の看板が掲げられている。この写真は尾道通り沿いのアーキが撮られている。



千光寺アーキの下には、この頃は商店が並ぶ様子が見られる。アーキの下には、ローアーキのアーキが並ぶ様子が見られる。この写真は尾道通り沿いのアーキが撮られている。



大勢の人が歩く様子が見られる。昭和30年代の尾道、尾道通り沿いの商店街の様子を写している。建物の多くは、ローアーキの1階部分が平屋の形に変わっており、2階部分が「尾道通り」の看板が掲げられている。



また、尾道本通り商店街のあゆみを年表（【図表2-4】）にした。

【図表2-4】尾道本通り商店街のあゆみ

昭和21年	土堂中央商店街結成
〃 24年	尾道商店街連合会結成(西本町・中央・東) スズラン灯設置
〃 27年	全日本商店街連合会の尾道支部となる
〃 28年	(協)尾道模範店会結成(52店)初代会長 金尾 馨
〃 32年	尾道市商店街連合会に改編
〃 36年	中央街結成
〃 37年	中央街アーケード完成(昭和28年より計画)
〃 38年	本通り6商店街 一斉休日(月三回・木曜日)
〃 39年	金座街アーケード完成
〃 40年	駅前本通りアーケード完成
〃 〃	尾道市商店街連合会青年部結成
〃 41年	本町センター街アーケード完成
〃 47年	久保本町商店街組合設立
〃 51年	本町センター街組合設立 本町センター街カラー舗装完成
〃 52年	金座街商店街組合設立
〃 53年	土堂中商店街組合設立 一番街組合設立 中央街カラー舗装完成
〃 57年	一番街～中商店街カラー舗装完成
平成 2年	中央街振興組合設立
〃 4年	商店街連合会事務所開設
〃 7年	尾道市商店街連合会活性化委員会結成
〃 16年	金座街商店街から尾道通り旧本陣・石畳地区商店街に名称変更
〃 18年	尾道市商店街連合会女性部会設立 女性部会「龍の玉手箱」販売開始 女性部会「尾道商店街界限路地マップ」作製・配布開始
〃 21年	本町センター街路面美装完成 駅前本町一番街・土堂中商店街路面美装完成

昭和24年1月10日に結成された尾道市商店街連合会は、尾道本通り商店街の管理・運営と各単会の商店街事業への協力に携わっている重要な機関である。尾道市商店街連合会の事業内容を【図表2-5】に示しておく。

【図表2-5】尾道市商店街連合会事業内容

4月	おのみちさくら祭り共催
	おのみちさくら祭り10%キャッシュバック
	尾道みなと祭協賛
6月～7月	尾道本通り商店街の土曜夜店主催
	まちなか音楽祭開催
7月	尾道市高校生書道部作品展協力
9月	尾道商業高等学校店舗実習協力
10月	尾道灯りまつり共催
	尾道菊花展協賛
11月	小林和作街頭展協力
	尾道ベッチャー祭り関連イベント
	ホワイトイルミネーション装飾
12月	隔年 尾道絵のまち四季展協賛

3. 尾道本通り商店街の現状

【図表2-6】尾道本通り商店街現在の様子



林芙美子像前

(写真：尾道市ホームページより)

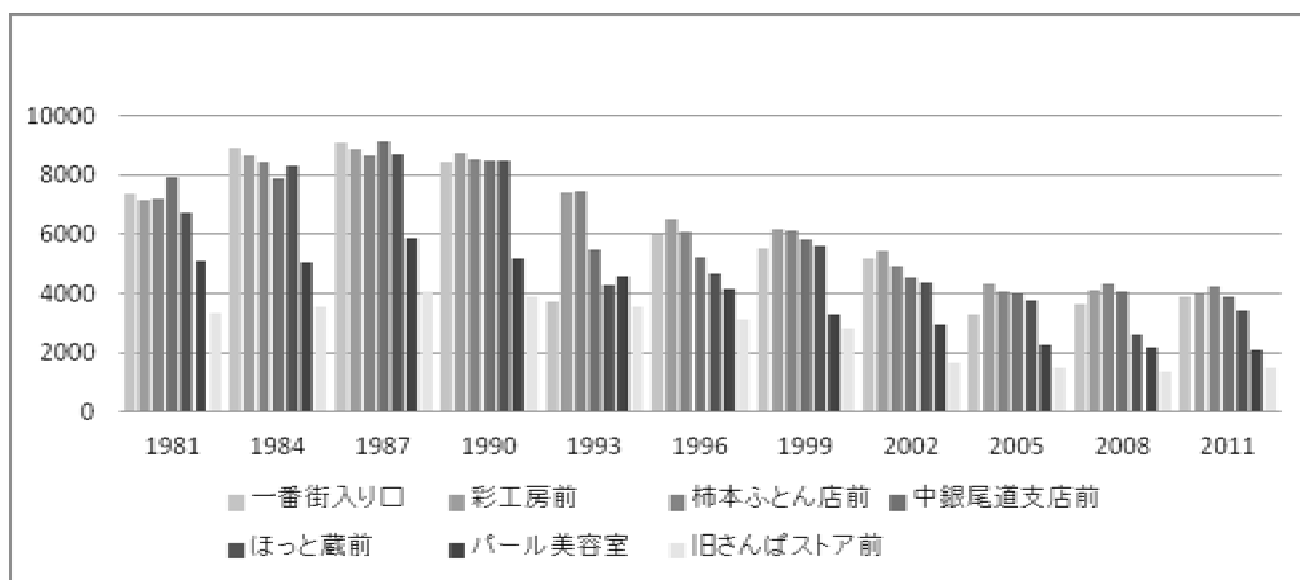
続いて、尾道本通り商店街全体の現状であるが、平成23年12月末現在、商店街全体にある店舗数は238店舗（郵便局を除く）となっている。また、5つに分かれている商店街ごとの店舗数は、一番街40店舗、中商店街18店舗、センター街69店舗、中央街76店舗、尾道通り35店舗である。店舗の業種で最も多いものが、飲食店であり、商店街全体で38店舗となっている。続いて多い業種は、婦人服を取り扱う店であり、こちらは商店街全体

で30店舗あった。

商店街では現在、休日の昼間でさえシャッターが閉まったままの店が増えており、空き店舗問題は深刻化している。港町・商都の地として発展するとともに、自然にかたち作られた尾道本通り商店街であったが、通行量も昭和62年をピークに減少傾向にあり、平成23年現在、ピーク時の約2分の1となっている。この現状について尾道市商店街連合会をはじめ多くの商店主が頭を抱えている。

以下に記した【図表2-7】と【図表2-8】は、それぞれ平日と休日での尾道本通り商店街通行量の移り変わりを示したグラフである。

【図表2-7】尾道本通り商店街通行量(平日)

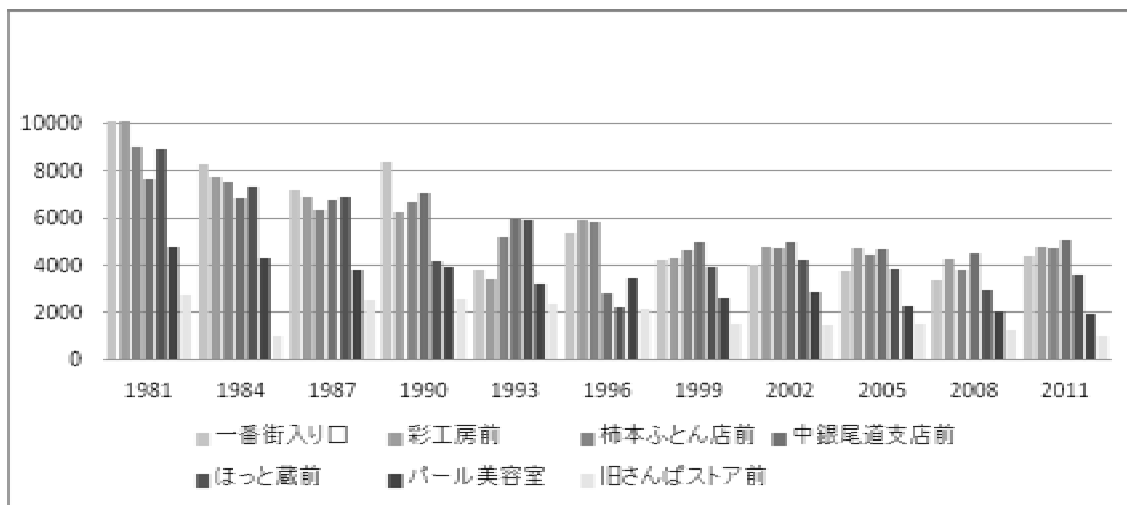


(『尾道市通行量調査 2011 年』を参照)

(1) 平日の尾道本通り商店街通行量の特徴

- ① 昭和 56 年 (1981 年) を調査の起点とし、昭和 62 年 (1987 年) までの 6 年間は徐々に通行量は増えており、その年に通行量のピークを迎えている。しかし、平成 2 年 (1990 年) から減少傾向を迎え、平成 5 年 (1993 年) には減少が明白になっている。
- ② 平成 5 年 (1993 年) から平成 11 年 (1999 年) の間には、各測定値で通行量の減少に差がみられる。彩工房前と柿本ふとん店前では大きな減少を見せている一方で、一番街入り口、中銀尾道支店前、ほっと蔵前、パール美容院、旧さんばストア前では、増加あるいは横ばいとなっている。
- ③ 平成 11 年 (1999 年) の調査では、どの計測地でも徐々に減少しており、平成 17 年 (2005 年) から平成 23 年 (2011 年) までは横ばい状態が続いている。

【図表2-8】尾道本通り商店街通行量(休日)



(『尾道市通行量調査 2011 年』を参照)

(2) 休日の尾道本通り商店街通行量の特徴

- ① 昭和 56 年 (1981 年) の調査を起点としているが、同時にその年がピークとなっている。3 年後の昭和 59 年 (1984 年) からは減少傾向にあり、平成 11 年 (1999 年) から横ばい状態が続いている。
- ② 全体の通行量がすでに減少傾向にあった平成 2 年 (1990 年) には、一番街入り口のみ若干増えている。しかし、その 3 年後の平成 5 年 (1993 年) には、一番街入り口の通行量は大きく減少し、平成 2 年の数値の半分以下にまで落ち込んでいる。

以上、2つの分析結果より、尾道本通り商店街の通行量は平日・休日問わず年々減少していることが明らかになった。こうした減少傾向に陥った原因として、尾道本通り商店街の周辺の変化が大きく影響しているものと考えられる。次節では、周辺環境の変化について詳しく説明しよう。

4. 周辺環境の変化が尾道本通り商店街に及ぼした影響

周辺環境の変化が尾道本通り商店街に及ぼしている影響の原因として、主に 2 つの事柄が考えられる。一方は、交通システムの変化、他方は、大型小売店の進出である。

まず、交通システムの変化についてであるが、尾道市の交通システムは (1) 渡船、(2) 鉄道、(3) 自動車という順で変化してきた¹²。(1) ~ (3) についての変化を、以下に詳しく説明しよう。

¹² この点については、長年、尾道本通り商店街で紳士服店を営んでおられる井上博氏からのヒアリングによった。

(1) 渡船の影響

現在の尾道商工会議所の1階には、「尾道中央棧橋」という向島・大三島・因島等の島から尾道に渡るための渡船乗り場があった。尾道中央棧橋は尾道本通り商店街につながっており、交通の便も良かったため、島方面から尾道を訪れる多くの人々は、頻繁に尾道本通り商店街で日用品はもちろん、専門店での買い物を楽しんでいた。また島方面から尾道へ通勤・通学・通院などの目的で渡船を利用する人々で尾道本通り商店街は賑わっていた。さらに、住吉神社の隣には「住吉浜」という港があり、そこで荷物のおろし作業が行われていたこともあり、現在の住吉神社一辺は問屋が栄え、人々の活気で賑わっていた。

(2) 山陽鉄道の開始

明治24年には山陽鉄道が営業を開始し、列車が走るようになった（現在のJR）。列車が活発に利用されるようになったことで、荷物のおろし作業の効率化の結果、以前のおろし作業の中心であった住吉浜から、現在の西御所におろし作業の場所が移り変わった。西御所にある倉庫は当時のなごりを残しており、現在の福屋・尾道駅周辺の道路はすべて鉄道が走るための線路であった。また駅前渡船の完成により、そのままJRが利用できるという利便性から、中央棧橋の渡船を利用する人が減少した。一方、JRを利用して尾道市から多方面に出かける人たちが増えていくことになった。

(3) 自動車の普及

一般家庭にも徐々に自動車が普及してきたことで、さらに遠方へ出かける人々が増えた。また、時代が車社会になったことで昭和40年代初期に、向島と尾道をつなぐ尾道大橋が完成したことから、渡船を利用する人々が減り、尾道中央棧橋は廃止されることになった。さらに平成11年には、しまなみ海道が全面開通し、それに合わせるように尾道本通り商店街の通行量は減少した（【図表2-7】、【図表2-8】参照）。

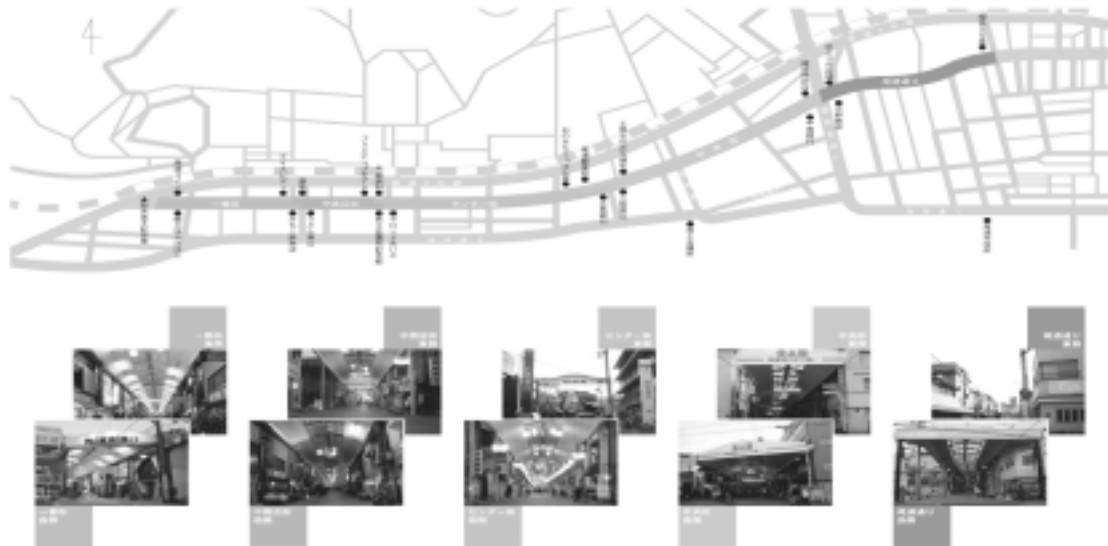
(4) 大型小売店の進出

尾道本通り商店街周辺にある大型小売店は、イオン（旧ニチイ）と、尾道駅前にある福屋である。イオンは昭和54年5月に、福屋は平成4年10月に営業を開始した。この二つの大型小売店の進出は、少なからず尾道本通り商店街に影響を与えている。

さらに、モータリゼーションの普及により、顧客は尾道本通り商店街ばかりではなく、商店街周辺の大型小売店より遠方であっても、広い駐車場のある郊外型の大型ショッピングセンターに足を運ぶようになってきている。こうして、かつての生き生きとした商店街の姿が今は見られなくなった。また、こうした変化とともに、今では店主、客層ともに高齢化している傾向がうかがわれる。

第3章 各商店街について

【図表3-1】尾道本通り商店街各区分



【図表3-2】尾道本通り商店街の老舗



資料提供：梶田時計店 梶田憲弘氏

尾道本通り商店街は5つに区分することができ、尾道駅前本町一番街商店街振興組合、尾道土堂中商店街、尾道本町センター商店街振興組合、尾道中央商店街振興組合、尾道通り旧本陣・石畳地区商店街振興組合に分かれている。【図表3-1】が各商店街の区分図であ

る。また、尾道本通り商店街には創業 100 年以上の老舗が多くみられる。その代表的な店舗を【図表 3—2】に示しておく。

そこで、私たちはそれぞれの各商店街の特徴を調査するため、大学で学んだ SWOT 分析を実施した。SWOT 分析とは、企業の戦略立案を行う際に使われる主要な分析手法で、組織の外的環境に潜む機会(O=opportunities)、脅威(T=threats)を検討・考慮したうえで、その組織が持つ強み(S=strengths)と弱み(W=weaknesses)を確認・評価することである。

機会と脅威とは、外部環境、即ち組織が目的を達成するうえで影響を受ける可能性のあるマクロ的要因(政治・経済、社会情勢、技術進展、法的規制など)とミクロ的要因(市場規模・成長性、顧客の価値観、価格の傾向、競合他社、協力会社など)を列挙し、促進要因と阻害要因に分けることで導き出す。強みと弱みは、自社の有形・無形の経営資源、例えば商品力、コスト体質、販売力、技術力、評判やブランド、財務、人材、意思決定力などを検討し、それらが競合他社より優れているか、劣っているかで分類して導いていく。

また、機会—脅威、強み—弱みは相対的なものであり、外部環境の変化によって強みが弱みに転じたり、分析者の解釈によって機会だったものが脅威になったり、ということがあり得る。このように SWOT 分析は主観的な裁量にゆだねられる部分が大きいため、需要や利益率の予測といった詳細・精密な分析には不向きな面がある。

以下が各商店街の SWOT 分析結果である。

1. 「一番街」

(1) 一番街の概要¹³

【図表 3-3】一番街の店舗一覧

飲食、食料品	生活用品、雑貨	衣料品
福寿し はまだんな本舗 創作ジャム工房おのみち 郷土味かけはし 極とんラーメン てっぱんや 喫茶美美子 くだものの秋本 食事喫茶よたろう 手打ちうどんよしや 藤原茶舗 おのみちの味かめだ ととあん みちこ鮮魚店	杉原薬局 山さき提灯店 ユリノイ 錦山崎清春商店(刃物の清春) 備前陶芸工房	ラ・フィエスタ 和まぎだ 勉強屋呉服店 ギャロ ナイスレディー尾道店 檸檬 バッグショップコムロ いちかわ呉服 ILYA (有)マサヤ靴下専門店
美容	その他	
ベニヤ化粧品店 マッサージ・ハウスふっとまーく	尾道コイン BOXマーケットフミコ 東洋堂スポーツ (有)古澤商店 (有)フォト工房	毎日新聞販売所 伊予銀行 錦大沢レコード店 ちるりん

¹³ 本章で示している各商店街の店舗名一覧は、おのみち本通り商店街ホームページ (<http://okaimonomichi.jcom.to/>) 及び尾道市商店街連合会の店舗調査表を参照した。

(2) 一番街のSWOT分析

平成23年12月26日、一番街のことを詳しく聞くため尾道本通り商店街に出向き、実際に一番街で店舗経営している商店主2名に集まっていただき、お話をうかがった。

【図表3-4】一番街のSWOT分析結果

	強み(Strengthes)	弱み(Weakness)
内部環境	商店街の環境 <ul style="list-style-type: none"> ・駅から近い ・空き店舗が少ない ・芙美子像がある ・うずしお路地の石畳 ・段差が少ない ・クリスマスのイベント ・アーケードを直して明るくなった 商店街の状況 <ul style="list-style-type: none"> ・専門店が多い ・レトロさ、伝統を感じるお店が多い 店舗の状況 <ul style="list-style-type: none"> ・店主の集まりがよい 	場所による実状 <ul style="list-style-type: none"> ・車の抜け道がない ・駐車場がない ・休憩所、ベンチ、トイレがない 経営の実状 <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化・後継者問題 各店の実状 <ul style="list-style-type: none"> ・入店してから、「いらっしやいませ」 ・営業時間が短い 店舗の実状 <ul style="list-style-type: none"> ・業種は多いが、バランスが悪い ・学生が利用するようなお店がない ・学生の遊び場、たまり場がない 運営の実状 <ul style="list-style-type: none"> ・雰囲気崩せない
	外部環境	機会(Opportunities)
周辺環境 <ul style="list-style-type: none"> ・尾道大学 ・土堂小学校 メディア環境 <ul style="list-style-type: none"> ・尾道市が2010年NHKテレビドラマ「てっぱん」の舞台となった 		時代背景 <ul style="list-style-type: none"> ・不景気 ・高齢化

(3) 考察

【図表3-3】、【図表3-4】から、尾道ゆかりの文学者、林芙美子の像があることや、刀剣のお店、提灯のお店、古美術のお店、備前焼のお店など、レトロさを感じるお店が多くあることが分かる。これらを積極的にアピールすることで、魅力ある雰囲気作りができるのではないだろうか。

次に、弱みとして、トイレや駐車場など、様々な施設がないことが挙げられているが、これらハード面の改修は、多大な費用や時間がかかる上、設置するための空間など、多くの問題を抱えている。しかし、こうした施設が尾道本通り商店街の他の商店街にあるもの

であれば、商店街同士で共同使用することで、これらの施設がないという弱みをカバーできる。これについて、商店街同士の協力が必要であろう。

最後に、一番街は尾道駅に最も近く、尾道本通り商店街の顔ともいえる。そのため、尾道駅から尾道本通り商店街へと人を呼び込むために、尾道駅を利用する人に尾道本通り商店街の存在を知らせ、尾道本通り商店街に立ち寄ってみたいという興味を湧かせる雰囲気作りが必要である。

2. 「中商店街」

(1) 中商店街の概要

中商店街は尾道本通り商店街を駅側から入り、2番目の商店街の区切りに位置する。中商店街には18店舗・記念館が立ち並ぶ。中商店街の正式名称は、尾道土堂中商店街である。

【図表3-5】中商店街の店舗一覧

飲食、食料品	生活用品、雑貨	衣料品
やすもと 喫茶メキシコ パン屋航路 クラシコ 千成瓢箪 うどん奥山 鉄板屋海物 (有)桂馬商店	KOTOTONE 備前焼の店 金森電機商会 プリミティブモアレ ミシンのまつかわ	YURI(ユリ)
		その他
		駒や 仏壇店古川 もみじ銀行尾道支店 三井住友銀行尾道支店

(2) SWOT 分析

平成24年1月6日、中商店街のことを詳しく聞くため尾道本通り商店街に出向き、実際に中商店街で店舗経営している店主1名から、お話をうかがった。

【図表3-6】中商店街のSWOT分析結果

	強み (Strengths)	弱み (Weakness)
内部環境	商店街の環境 ・金融機関には含まれている(尾道商店街入り口の広島銀行と、中商店街にあるもみじ銀行) ・駐車場が近い(うずしお商店街と桂馬さん所有の駐車場)	場所による実状 ・観光バスで来られる方は中商店街まで来る時間がない →観光バスを駐車する場所から中商店街の間に、大きなお土産屋さん(「ええもんや」)があるため、観光客の方はそこまでしか散策しない
	店舗の状況 ・中商店街にある二つの路地(絵や写真を撮る人が多い路地と、若者が集まる人気のチャイダー屋さんがある路地)に人通りが多い	→観光客は自由時間が限られているため、中商店街まで来る時間がない
	店舗関係 ・桂馬さんは商品を買うところとは別に、桂馬の商品を食べられる場所がある	運営の実状 ・中商店街には学生が魅力を感じる飲食店がない

	機会 (Opportunities)	脅威 (Threats)
外部環境	周辺環境 ・JR尾道駅に近いので、観光客の方に来てもらいやすい(尾道散策に時間がかからない) ・渡船が近いので、渡船ご利用のお客様に足を運んで頂ける メディア環境 ・飲食をするために寄られるお客様が多い＝飲食店が多い	周辺環境 ・昔は山手(土堂西)の方に住居がたくさんあったが、現在は空き家が多い ・尾道にせっかく来たので、海岸沿いを歩きたいという方が多い ・海岸通りに若者向けのお店が多い ・一階の広い空き店舗が目立つ 人間関係 ・アーケードを修理するのか取り外すのか、商店街の意見のぶつかりがある

(3) 考察

中商店街の弱みとして、観光客の方は海が見たいということで、若者のお店も多い海岸沿いを歩く傾向が挙げられている。しかし、強みとして挙げられた、中商店街にある 2 つの細道からは海全体ではないが、建物と建物の間に少し海が見えるという情景がある。これを利点として活かし、新しい海の見え方と楽しみ方を提案すれば、中商店街の新しい魅力を生み出せるのではないだろうか。

また、別の弱みとして、中商店街に学生が魅力のある飲食店がないという点が挙げられたが、後述する通行人アンケートにおいては、年配の方が食事をするために中商店街を訪れている傾向がある。中商店街には以下の 4 つの飲食店がある。「(有) 尾道コーヒーボーイ土堂店・喫茶メキシコ」は、コーヒー・紅茶・パンなどが食べられる喫茶店である。「うどん奥山」はお酒やちょっとしたおつまみのあるスナックであり、「鉄板や怪物」は居酒屋である。「プリミティブモアレ」はハーブティーのお店である。しかし、学生が気軽に利用できるという雰囲気になく、学生にとっては立ち寄りやすいという意欲が湧きにくいのではないだろうか。学生が立ち寄りやすく、ワンコインで食事できるお店や、飲食しながら落ち着ける場を作れば、通学途中の学生や、食事するために中商店街に来てくれる学生が増えるのではないだろうか。

次に、観光バスで来られる方は、中商店街まで来る時間がないという点に注目してみる。観光バスが駐車する場所は、中央街と尾道通りの間にあり、近くには千光寺に上がるロープウェイや有名なラーメン店の「朱華園」がある。中商店街に向かう途中の中央街に大きな土産屋「ええもんや」があるため、観光客の方はそこに立ち寄り、お土産を買い、観光バスへ引き返す傾向がある。この理由としては、観光ツアーであるため、中商店街まで歩き、引き返す時間を考えると、お土産を見る時間がなくなるので、「ええもんや」で全てお土産を揃え、満足してしまうということが挙げられる。そこで、中商店街まで来てもらうためには、中商店街にもう 1 つ土産屋を開き、中商店街でしか買えないお土産を置けばいいという意見も出た。そのお土産が目目されれば、商店街のツアー時間が伸びる可能性もあり、観光客の来店数も増えるのではないだろうか。

3. 「センター街」

(1) センター街の概要

尾道本通り商店街の5つの商店街の真ん中に位置するセンター街は69の店舗から成り立っている。センター街の正式名称は、尾道本町センター商店街である。

【図表3-7】センター街の店舗一覧

飲食、食料品	生活用品、雑貨	衣料品
ゆーゆー LOS 緋上野屋本舗 浦上酒店 天狗寿司 ボラーチョ 自然食品anew 食事処にしやま ふうらん めん処みやち どん吉 尾道玉扇 御菓子司松愛堂 きっ粋	中川硝子店 ブレード&カンパニーオノミチ はきものあば 井上商店 水ノ上洋傘店 石田勉強堂 きそ毛糸店 高原誠吉商店 DANJO ひばり毛糸店 ウエダ靴店 檀上 尾道帆布彩工房 柿本ふとん店	ビーツー(bⅡ) B.Sリパティ尾道ST店 フィットフィックス 作家華凛 ラブダンス エコイストジャパンオノミチ 花もめん 青山洋装店 松岡服地店 洋服のヤマダヤ 緋ヤマダヤ(手芸のヤマダヤ) べんぎん堂 クロダ洋服店 あいさーQ ブルックリン こばやし なおじねこ たにやま セゾンドベル アリア
アクセサリ	美容	その他
うろこ屋マリンライフ尾道 小さなお店 宝石のモリシタ 阪井眼鏡店 愛情メガネの田中尾道渡場店	化粧品とおしゃれのお店いはら	馬越歯科 結納の山北 (有)花本書店 イシネ事務機 アシーズブリッジⅡ 尾道にぎり地蔵おぎゃあ 小田印房 木曾ラジオ商会 ガンショップワタナベ 林ウバ車店 花のよしはら 結納文具きくち ミハルスポーツ (有)エイカ玩具 広島銀行尾道支店

(2) SWOT 分析

平成23年12月29日、センター街のことを詳しく聞くため尾道本通り商店街に出向き、実際にセンター街で店舗経営している商店主から、お話をうかがった。

【図表3-8】センター街のSWOT分析結果

	強み (Strengthes)	弱み (Weakness)
内部環境	商店街の環境 ・オリジナル企画がある ・季節感がある ・役員がやる気がある ・店舗構成のバランスが良い 店舗の状況 ・商店街会員サービスがよい ・出店しやすい ・前向き個店がある	場所による実状 ・近くに駐車場がない ・地元の人を呼びつける強力な店がない 運営の実状 ・店のPRができていない 各店の実状 ・店舗の統一感がない 運営の実状 ・設備の老朽化 ・会員数の減少 ・会費が値上げできない ・後継者不足

	機会 (Opportunities)	脅威 (Threats)
外部環境	周辺環境 ・季節ごとのイベントに客が来ること	施設関係 ・若い人が来ない ・郊外に大型店がある

(3) 考察

まず、強みにあるオリジナル企画とは、年越しイベントや節分のイベントをセンター街のみで行っていることである。季節感があるというのは、アーケードの看板に取り付けるペナントが6種類あり、それを2か月に一度替えることにより季節の移り変わりを感じさせることができるということである。また、七夕には笹の葉を飾るなど、その季節に合った行事を行っている。会員サービスがいいというのは、センター街事務所の設備が使えるという点においてであり、出店しやすいというのはこうした厚い会員サービスがあるからである。前向き個店とは、やる気のある店主が多いことを指している。

次に弱みについて、駐車場に関しては両隣の中商店街と中央街に駐車場があり、センター街には駐車場がないことである。また、会費が30年前から変わっておらず、活動の圧縮が余儀なくされている。さらに、新しい店舗が開店してもPRがされておらず、お客様に知られていない専門店が多くあるという意見が出た。統一感がないのも弱みであるが、その点は、マニュアルのある店にはない個性的なサービスを提供することで、強みへと転換できる可能性があると考えられる。設備の老朽化は、アーケードや建物が古くなっていることが挙げられる。これについても、懐かしさやレトロ感という強みに転換できる余地を検討すべきである。こうした工夫によって、センター街の魅力が増せば、会員数の増加に繋がり、引いては雇用対策にも繋がるものと考えられる。

次に、機会として唯一挙げられたのが、季節ごとのイベントにお客様が来られることである。しかし、イベント自体の認知度が低いことや開催日が分からないという人も多いため

ることについては改善の必要がある。

最後に脅威についてだが、若い人が来ない、郊外に大型店があるという点が挙げられた。若い人が来ないのは福山や広島に若者向けのお店があるからであり、尾道本通り商店街がそれらの店からお客様を呼び戻すためには、尾道本通り商店街独自の味を出すことが必要になってくる。これはセンター街のみならず尾道本通り商店街全体に言えることである。また、郊外の大型店についても同様で、欲しいものが何でも手に入る大型ショッピングモールに人が集まる傾向にある。そこから、いかに商店街の魅力を引き出し、お客様に伝えていくかが今後の課題となっている。

4. 「中央街」

(1) 中央街の概要

【図表9-9】中央街の店舗一覧

飲食、食料品	生活用品、雑貨	衣料品
東方記 ハラ屋 十月の桜 まかない食堂むらちゃん ビストロタカガキ 岩ベェ 豚繰の店長江 起立 轉禮上美術 (有)全萬堂 八百屋(黒飛) アイスカフェBINGO 自然食品ビュアショップ 尾道浪漫珈琲 はなまる 日山商会 喫茶が あかとら	工房おのみち帆布 CHOKOTOKO (有)しもしげ ポアボックス ダイノー 下田尾業局 油岩漆器店 三阪商店紳 不二金物紳 もめんく ARTZAKKAこの道や タオル工房ART マルサダ 杉原文具店 (有)エスケー電気商会	イノウエ洋服店 マンシングウエアショップAOKI パンプキンデニッシュ かしはら レディーススミダ スミダ キッズセレクトBOX 向陽社 ラモードパリス 洋服のデパートアオキ ひろせ 洋品店 HONEY'S レディースはらだ ヌーベルボーダ 小林呉服店 アトリエふじた 長田洋品店 木曾衣料店 瀧本商店
アクセサリ	美容	その他
(有)カモン 櫻田時計店 七宝じよるじゅ	メニーフィールズ美容室 まなぶ美容室	湯浅病院 村上医院 イベントの館 森田小児科 絵画ショップモネ 佐藤紙店 立花テキスタイル研究所 えびすや仏壇店 コマサ玩具店 ギャラリー都 尾道ええもんや 村上タバコ バビブペハウス 中国銀行尾道支店 アメリカヤクリーニング ベビーショップみなと 平川一舟写場

尾道本通り商店街の中ほどに位置する中央街は、全長約 385m、店舗数 76 店舗の商店街で

ある。また、「尾道絵のまち館」という立体駐車場を持っていることも特徴的である。中央街の正式名称は、尾道中央商店街振興組合である。

【図表3-10】中央街のSWOT分析結果

	強み (Strengthes)	弱み (Weakness)
内部環境	商店街の環境 ・位置的に商店街の真ん中にあり、どこからでも来ることができる ・立体駐車場を持っている ・尾道一長い商店街 ・アーケード等が独立しているため改修等がしやすい	場所による実状 ・東西で環境が違いすぎる ・東西に長い、意見の統一が難しい ・東西に長い、お客様が端から端に行きにくい
	商店街の状況 ・帆布などの珍しい店がある ・独自のコミュニティ施設を持っている	経営の実状 ・店主の年代幅が広いのでギャップが多い
	・商店街の各所にトイレがある ・病院が集まっている所がある	・商売以外で生活の糧を持っている人が居る(年金等) ・後継者不足の店舗が多い ・従業員を抱える店が少ない
	店舗の状況 ・比較的若手経営者が多い	各店の実状 ・スーパーがない ・生活物品を売る店が少ない
	・まだ元気な店がある ・店主に元気な女性が多い	・店が閉まるのが早い
	店舗関係 ・チェーン店が少ない ・観光客の滞在できる店がある	交通の実状 ・自動車の通行時間が中途半端 ・無秩序に駐車場ができる
		運営の実状 ・商店街組織がもろい所がある ・商店街活動の後継者不足

	機会 (Opportunities)	脅威 (Threats)
外部環境	周辺環境 ・ロープウェイ乗り場が近い ・東西の入口ともに道の合流地点になっている ・観光バスの乗り場が近い ・車が南北に抜ける道がある	施設関係 ・アーケードが古い ・立体駐車場の老朽化 ・各店舗の老朽化 ・商店街の中央辺りが過疎状態
	位置関係 ・役所・金融機関が程良い位置にある	人間関係 ・客層の高齢化 ・経営者の老朽化
	施設関係 ・市内各種のイベントをする施設がある ・観光の目玉の店が近くにある(ラーメン)	位置関係 ・各学校の通学路のため自転車通行が多い
	人間関係 ・外部団体の支援が多い ・若手が商店街に参加している	経営関係 ・地価・家賃が比較的高い ・組合の経営難
	メディア環境 ・芸能人も寄る店がある ・地元マスコミと仲がいい ・テレビに出る事が多い	

(2) SWOT 分析

平成 23 年 12 月 28 日、中央街のことを詳しく聞くため尾道本通り商店街に出向き、実際に中央街で店舗経営している商店主 1 名に、お話をうかがった。

(3) 考察

中央街は距離が長く、また店舗数も多い。また、チェーン店が少なく、個性豊かな店舗があるということは大きな強みである。大きなイベントを催さずとも、時間限定の学生割引サービス等を行うことで、学生が下校時に立ち寄るようになる可能性がある。さらに、現在通学路としてのみ利用している学生が、そうしたサービスにより“商店街”を利用するようになることで、自転車の危険性も低くなると考えられる。自転車に関しては、駐輪場の問題も考えていかなければならないだろう。

次に、駐車場の問題に注目する。立体駐車場を持っていることは強みであるが、活かせていないのが現状である。駐車場に関しては予てより問題視されていたため、中央街の持つ立体駐車場の使い方次第で、より商店街を利用しやすくなると考えられる。中央街入り口には、尾道郵便局や、広島銀行尾道支店、中国銀行尾道支店という金融機関などがあるため、生活者が利用しやすい環境づくりが必要となる。駐車場を安く利用できる工夫を考えなければならない。

続いて、「東西に長い点意見の統一が難しい」点や、「商店主の年代幅が広いのでギャップが多い」という点は、いかに商店街でコミュニケーションを図るかという工夫で改善できると考えられる。つまり、コミュニケーションが良好な商店街作りが課題となる。そのためには、誰かが動かなければならない。「観光バスの乗り場が近い」、「観光の目玉の店（ラーメン店）が近くにある」といった人が集まりやすい機会を、「比較的若手経営者が多い」、「まだ元気な店がある」、「商店主に元気な女性が多い」といった強みによって活かしていくべきである。

アーケードや各店舗の老朽化というようなハード面は、費用があれば改善できる。その反面、ソフト面を変えるには時間を要するが、それを意識することで、すぐに取り掛かることができる。中央街の持つ強みを活かして、まずは、ソフト面から取り掛かっていくべきであると考えられる。

5. 「尾道通り」

(1) 尾道通りの概要

正式名称、尾道通り旧本陣・石畳地区商店街振興組合である「尾道通り」は、5 つに区分される商店街の一番東側に位置している。尾道通りは全長約 225m あり、西側半分はアーケード街、東側半分はアーケードがない状態である。現在は 35 店舗が営業をしており、飲食店を始め、スーパーマーケット、写真館、ペットショップまで豊富な業種の店舗がある。

また、駐車場が 9 か所、商店街の西側にはバス停と、千光寺へ上る道があり、休日は観光客で賑わっている。

【図表3-11】尾道通りの店舗一覧

飲食、食料品	生活用品、雑貨	衣料品
UCCカフェバザールベーシック 鶴鶴屋長江店 昇福亭 いり江 蔵鯨 山根酒店 喫茶くるみ 中野商店 三上洋酒店 一華 トランキリテ 民芸喫茶てまり 尾道蔵酢 山虎商店 小鉢	アブコ薬局 ヨシナカ本店 ルージュはやしはら トモエ でんきの日進	九十九呉服店 パリゴ尾道本店 秋元洋服店
	アクセサリ	その他
	いとう商店 吉本眼鏡店	ペットショップしんたく ベニヤ 砂田内科 天然ラドン温泉夢屋 尾道むかしおもしろ館ほっと蔵 大村仏壇店 上岡写真館
	美容	
	パール美容室 タケクニ化粧品店 ノアズ・アーク 住田理容院	

(2) SWOT 分析

平成 23 年 12 月 28 日、尾道通りのことを詳しく聞くため尾道本通り商店街に出向き、実際に尾道通りで店舗経営している商店主 5 名に集まっていただき、お話をうかがった。

【図表3-12】尾道通りのSWOT分析結果

	強み (Strengths)	弱み (Weakness)
内部環境	商店街の環境 ・尾道通りの事務所の家賃が安い ・38件の営業店舗がある ・9つの駐車場がある(商店街の中で一番多い) ・6~7年前に石畳になった ・下水道工事が一番早い ・映画資料館・美術館がある ・鶴屋(スーパー)が良い場所にある ・飲み屋街がある ・温泉がある	場所による実状 ・夜は人がいない ・全体的に食べ物が高い ・定食屋がない ・今年は2~3店舗閉店する
	店舗の状況 ・夏は学生の利用がある	施設の実状 ・尾道通りの半分アーケードが付いていて、もう半分は付いていない ・アーケードのないところはシャッター街となっている
	店舗関係 ・人間関係が良い (90歳の高齢者も協力している)	運営の実状 ・若者に託したいがない ・次の代がいなければ閉店もやむをえないと考えている

	機会 (Opportunities)	脅威 (Threats)
外部環境	周辺環境 ・千光寺が近くにある ・尾道は寺がたくさんある ・商店街の西側にバス停がある ・近くに有名ラーメン店(朱華園)がある	周辺環境 ・高速道路が発達した ・中央街にお土産屋がある ・駅・海岸沿いはライトアップされている ・100円ショップ・量販店が発達した
	メディア環境 ・尾道市が2010年NHKテレビドラマ「てっぺん」の舞台となった	時代背景 ・昔は山の上に人がたくさん住んでいた ・商品の仕入れ単価が高い ・東日本震災 ・祭り夜店が不興 周辺環境 ・市からの補助金がない

(3) 考察

尾道通りは、5 つに分かれる商店街の一番東側に位置し、JR 尾道駅から最も遠いこともあり、JR を利用する観光客の方にはあまり利用されていない可能性が高い。そうした観光客の方々を含めて、多くの人に足を運んでもらえるように、尾道通りの特長を活かし、強みに変えていく必要がある。例えば、尾道通りには写真館、歴史資料館、古美術品の展示館などがあるので、こうした施設をもっと活用していくことが重要である。

尾道通りの強みとして、駐車場の数が挙げられる。尾道通りは、9 つの駐車場を有し、5 つの商店街の中で一番数が多い。さらに、尾道通りの西端には、千光寺公園への登り口に位置するバス停もある。これらの強みを活かすためにも、商店街の魅力を高めていく知恵を絞り、努力を重ねていく必要がある。また、尾道通りの中には、尾道本通り商店街唯一のスーパー(鶴屋)があり、食料品や、日用品を買いに来る地元の人で日々賑わっている。

次に、弱みとして、尾道通りの東半分のアーケードを取り崩したことにより、取り崩した個所に属する店舗の衰退化が進み、現在ではシャッター街となっていることが挙げられる。残念ながら、今年(平成24年)も、2~3店舗が閉店することになっているということである。また、後継者問題についても「若者に託したいが若者がいない」、「次の代がいなければ閉店もやむを得ない」という考えを持つ店主が多く、商店街自体の士気の低下から、現在のところ、活気のある商店街とは言い難いだろう。これを改善するために、店主一人ひとりの意識を変えることが必要だ。次の代がいなければ、次の代に自分から名乗りを上げさせるような、魅力ある商店街作りをしなければならない。

そのためには、「市からの補助金がない」、「以前と比較して商品の仕入れ単価が高い」などという外部的環境は、すぐには変えられないということを肝に銘じて、自分たちの取り組むことができる内部環境を活かした自助努力をすることが鍵となる。